

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2013/03/01

## 次のテーマは英緩和強化か伊政局か

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	➡	<b>イタリア政局が焦点に</b> 予想レンジ: 117.50~125.00円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	➡	<b>伊政局と米金融政策</b> 予想レンジ: 1.2750~1.3350ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	↘	<b>各種材料をそれぞれ確認</b> 予想レンジ: 137.00 ~ 144.00 円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	↘	<b>英米の中銀の姿勢に注目</b> 予想レンジ: 1.4800 ~ 1.5400 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	124.54円	127.71円	118.72円	121.01円



①	4日、スペインのラホイ首相ら与党国民党のメンバーが不正資金を受領したとの一部報道を基に野党が首相の辞任を迫っている事や、イタリアの総選挙に絡む世論調査でベルルスコーニ元首相が支持率を伸ばした事(反緊縮派のベルルスコーニ氏が勝利すれば財政改革路線が後退するとの懸念)を受けて両国の国債利回りが大きく上昇すると124.62円まで下落した。
②	5日、日銀の白川総裁が(二人の副総裁の任期満了時期に合わせて)3月19日付けで辞任すると発表した。新体制の下で日銀が一段と金融緩和を強化するとの思惑から円売りが活発化すると126円台を回復。さらに「ユーロは金融政策の行動を促すほど高い水準にはない」とする欧州中銀(ECB)関係者の発言や、NYダウ平均の上昇を受けて127円台まで一段高となった。
③	7日、欧州中銀(ECB)は政策金利の据え置き(0.75%)を決定。理事会終了後の記者会見でドラギ総裁が「ユーロ圏の経済活動は下振れリスクのほうが大きい」「為替レートが成長や物価安定に重要」と発言すると126円を割り込んだ。さらに原油価格が1.5ドル超下落した事やNYダウ平均が一時130ドルを超える下落となった事を受けて124.50円まで下値を切り下げた。
④	12日、G7は「財政・金融政策は国内目標を目指し、為替相場を目標としない」などとする緊急共同声明を発表。「アベノミクス」への批判とも受け取れる内容だったが、この声明に対し麻生財務相が「日本の政策が円安誘導ではない事が正しく認識された」との見解を示すと126.94円まで上昇した。しかしその後、G7当局者が「声明は誤解されている。声明は円の過度な動きに対する懸念を示唆」と発言すると急速に円が買い戻されて125.00円まで下落した。
⑤	14日、独第4四半期国内総生産(GDP)が前期比-0.6%と予想(-0.5%)を下回った他、仏・伊GDPも弱い結果となり、結果的にユーロ圏第4四半期GDPも-0.6%と予想(-0.4%)を下回った。さらに、コンスタンシオECB副総裁が「マイナス金利は常に可能」などと発言した事もあって、123.80円まで下落した。
⑥	21日、上海株の大幅下落を嫌気して124円を割り込んで下落。さらに、仏・独の2月製造業PMI・速報が予想を下回り、ユーロ圏2月製造業PMI・速報も47.8と予想(48.5)を下回るとユーロ売りが加速し、122.26円まで下値を切り下げた。
⑦	25日、イタリア総選挙について出口調査や開票速報の結果がベルルスコーニ氏優勢を伝える度にユーロ売りが強まった。NY市場終盤に、下院ではベルサニ陣営がリードするも、上院ではベルルスコーニ陣営が優勢と伝えられると、政局の混迷をきっかけにイタリアの債務問題が再燃するとの懸念が高まり、118.72円まで下落。この日の高値から6円以上に及ぶ大幅な下落となった。

## EUR/JPY

## 今月のポイント

2月のユーロ/円相場は118.72円～127.71円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.7%の下落（ユーロ安・円高）となった。6日には、一時2010年4月以来の高値を付けたが、15-16日のG20財務相・中央銀行総裁会議で通貨安誘導政策にクギが刺された事や、イタリア総選挙をきっかけに同国の債務不安が再燃しかねないとの懸念が浮上した事が重石となり、月足チャート上では7カ月ぶりの陰線を記録した。

3月については、イタリアの政局動向が関心を集めるだろう。3月15日に予定されている議会の召集までに連立政権の枠組みが固まるか否かがひとつの焦点となっているが、モンティ財政改革路線を継承する最大勢力の中道左派連合と、反増税を掲げる他の政党連合による大連立は困難な状況だ。政局の混迷は同国の財政不安を想起させるため、ユーロ売り材料となりやすい。ただ、もし、中道左派連合・民主党党首のベルサニ氏が緊縮財政政策を修正してでも連立の道を模索する事になれば、最終的な財政目標の達成は危ぶまれるものの、目的的な不安は後退する事になり、ユーロが反発する可能性もある。

一方、日本では日銀正副総裁の人事もほぼ固まり、新体制の日銀による「異次元の金融緩和」への期待はあるものの、ここまで期待だけで進んだ円安に一服感が漂っており、「アベノミクス」の実際の効果を見極めたいとのムードが広がりつつある。これまでのようなハイペースでの円安局面は一旦終了したと考えるのが妥当であり、当面はユーロ圏（特にイタリア）の動向がユーロ/円相場を動かす場面が増えそうだ。（神田）

（予想レンジ：117.50～125.00円）

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月中国製造業PMI	3/18(月)	1月ユーロ圏貿易収支
	2月米ISM製造業景況指数	3/19(火)	3月独ZEW景況感調査
3/5(火)	1月ユーロ圏小売売上高		2月米住宅着工件数
	2月米ISM非製造業景況指数	3/20(水)	3月ユーロ圏消費者信頼感・速報
3/7(木)	日銀金融政策決定会合(6日～)		米FOMC政策金利発表
	欧州中銀金融政策発表	3/21(木)	2月本邦通関ベース貿易収支
3/8(金)	1月本邦経常収支・貿易収支		3月独PMI製造業・速報
	2月中国貿易収支		3月ユーロ圏PMI製造業・速報
	1月独鉱工業生産	3/22(金)	3月独IFO景況指数
	2月米雇用統計	3/27(水)	3月ユーロ圏消費者物価指数・速報
3/13(水)	1月ユーロ圏鉱工業生産・季調済	3/28(木)	3月独雇用統計
	2月米小売売上高		
3/15(金)	2月ユーロ圏消費者物価指数・確報		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# EUR/USD

## ユーロ/ドル 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3576ドル	1.3711ドル	1.3018ドル	1.3067ドル



①	1日、米1月雇用統計で失業率が7.9%(予想7.8%)、非農業部門雇用者数が15.7万人増(予想16.5万人増)と予想より弱い結果になると発表直後はドル売り・ユーロ買いが優勢となった。その後、ユーロ/NZドル相場がユーロ安・NZドル高が進んだ影響から1.36ドルを割り込む場面もあったが、米1月ISM製造業景況指数が53.1と予想(50.7)を上回るとNYダウ平均が14000ドル台まで大幅に上昇した事から1.3711ドルの高値まで反発した。
②	4日、スペインのラホイ首相ら与党国民党のメンバーが不正資金を受領したとの一部報道を基に野党が首相の辞任を迫っている事や、イタリアの総選挙に絡む世論調査でベルルスコーニ元首相が支持率を伸ばした事(反緊縮派のベルルスコーニ氏が勝利すれば財政改革路線が後退するとの懸念)を受けて両国の国債利回りが大きく上昇すると1.3505ドルまで下落した。
③	6日、イタリア総選挙の世論調査でベルルスコーニ氏がさらに支持率を伸ばし、次期首相最有力候補の民主党ベルサニ氏に迫った事を受けてユーロ売りが活発化。モスコビシ仏財務相が、ユーロ圏財務相会合およびG20会合の場で、ユーロ高をめぐる懸念について取り上げる意向を明らかにした事も重石となり1.35ドルを割り込んだ。
④	7日、欧州中銀(ECB)は政策金利の据え置き(0.75%)を決定。理事会終了後の記者会見でドラギ総裁が「ユーロ圏の経済活動は下振れリスクのほうが大きい」「為替レートが成長や物価安定に重要」と発言すると1.34ドルを割り込み1.3370ドルまで下落した。
⑤	14日、独第4四半期国内総生産(GDP)が前期比-0.6%と予想(-0.5%)を下回った他、仏・伊GDPも弱い結果となり、結果的にユーロ圏第4四半期GDPも-0.6%と予想(-0.4%)を下回った。さらに、コンスタンシオECB副総裁が「マイナス金利は常に可能」などと発言した事もあって、1.3316ドルまで下落した。
⑥	20日、「雇用市場の見通しが大幅に改善したと判断する前に資産購入の縮小または停止が必要になる可能性がある」と複数のメンバーが述べた」などとする米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録にドル買いで反応。NYダウ平均や原油価格の下落も重石となり1.3271ドルまで下落した。
⑦	25日、イタリア総選挙について出口調査や開票速報の結果がベルルスコーニ氏優勢を伝える度にユーロ売りが強まった。NY市場終盤に、下院ではベルサニ陣営がリードするも、上院ではベルルスコーニ陣営が優勢と伝えられると、政局の混迷をきっかけにイタリアの債務問題が再燃するとの懸念が高まり1.3047ドルまで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/USD

## 今月のポイント

2月のユーロ/ドル相場は1.2997ドル～1.3594ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.8%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。7カ月ぶりの下落となった背景として、イタリアの総選挙の結果を受けた政局不透明感がユーロの重石となった事は間違いないが、米連邦準備制度理事会(FRB)による量的緩和の早期縮小・停止観測が台頭した事によるドル高の影響も大きかった。

イタリアの政局については、3月15日に予定されている議会の召集までに連立政権の枠組みが固まるか否かがひとつの焦点だが、モンティ財政改革路線を継承する最大勢力の中道左派連合と、反増税を掲げる他の政党連合による大連立は困難な状況となっている。政局の混迷は同国の財政不安を想起させるため、ユーロ売り材料となりやすい。ただ、もし、中道左派連合・民主党党首のベルサニ氏が緊縮財政政策を修正してでも連立の道を模索する事になれば、最終的な財政目標の達成は危ぶまれるものの、目先の不安は後退する事になり、ユーロが反発する可能性もある。

FRBによる量的緩和の早期縮小・停止については、「雇用市場の見通しが大幅に改善したと判断する前に資産購入の縮小または停止が必要になる可能性がある」と複数のメンバーが指摘しており(2月20日に公表された1月FOMC議事録より)、3月20日のFOMCで従来よりもタカ派的な声明が発表されればドル高が進む公算が高い。ただ、バーナンキFRB議長は2月26日の議会証言で量的緩和を継続する方針を改めて表明しており、メンバー内で大きく意見が割れているようだ。強制歳出削減への対応をめぐる米議会の交渉が難航しているだけに、ハト派的な声明が踏襲される可能性も十分にありそうだ。(神田)

(予想レンジ:1.2750～1.3350ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月中国製造業PMI	3/18(月)	1月ユーロ圏貿易収支
	2月米ISM製造業景況指数	3/19(火)	3月独ZEW景況感調査
3/5(火)	1月ユーロ圏小売売上高		2月米住宅着工件数
	2月米ISM非製造業景況指数	3/20(水)	3月ユーロ圏消費者信頼感・速報
3/6(水)	2月米ADP全国雇用者数		米FOMC政策金利発表
	米地区連銀経済報告(ページブック)	3/21(木)	2月米中古住宅販売件数
	欧州中銀金融政策発表		3月独PMI製造業・速報
2/8(金)	1月独鉱工業生産		3月ユーロ圏PMI製造業・速報
	2月米雇用統計	3/22(金)	3月独IFO景況指数
3/13(水)	1月ユーロ圏鉱工業生産・季調済	3/27(水)	3月ユーロ圏消費者物価指数・速報
	2月米小売売上高	3/28(木)	3月独雇用統計
3/15(金)	2月ユーロ圏消費者物価指数・確報		第4四半期米GDP・確報値
	2月米消費者物価指数		3月米シカゴ購買部協会景気指数
	2月米鉱工業生産	3/29(金)	2月米PCEデフレーター

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/JPY

## ポンド/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	145.39円	147.97円	137.82円	140.50円



- ① 7日、欧州株高やカーニー次期英中銀(BOE)総裁の公聴会前のポジション整理のポンド買いが入った上、公聴会にてカーニー次期総裁が「BOEは非伝統的な政策を脱しなければならない」等と述べるとポンド/円は147.97円まで急騰。ただ、その後は「就任時に一段の刺激策が必要とされれば、他の金融政策委員会(MPC)メンバーを説得するため最善を尽くす」等とハト派的な発言が出た他、ドラギECB総裁の「ユーロ圏の景気見通しのリスクは下向き」等の発言を受けた全般的なリスク回避ムードの中でポンド/円は失速した。なお、MPCは市場予想通り金融政策を据え置いたが、声明で「穏やかで持続的な回復を引き続き予想するが、リスクは下向き」等とリスクに配慮する姿勢を示したこともポンドの重石となった。
- ② 13日、ロシア財務省高官が「円は明らかに過大評価されてきた」等と発言したことなどを受けて円安が進行するとポンド/円は上昇。さらに英インフレ報告で2年後のインフレ見通しが2.3%前後と前回分を上方修正したことからポンド買いが入り、146.38円まで切り返した。しかし、成長率見通しを1.9%前後(11月予想:2.0%)と引き下げたことや、キングBOE総裁が「必要ならば追加緩和を実施する用意がある」と発言したことなどを受けて失速。ユーロ/円の下落もポンド/円の押し下げ要因となった。
- ③ 15日、英1月小売売上高指数が前月比-0.5%(除自動車燃料)と市場予想(+0.5%)に反して悪化したこと等を受け142.77円まで下げた。しかし、一部通信社がG20筋の話として「G20は声明を巡る協議で日本を名指ししなかった」等と伝えたことを受けて円売り優勢に転換した。
- ④ 19日、麻生財務相の「デフレ脱却に向けた金融緩和の手段として外債購入する気はない」との発言を受けてポンド/円は下落。その後も上海株安や、NY市場で英国が格下げされるとの噂で一段安となった。
- ⑤ 20日、安倍首相が「官民外債ファンドの必要性は相当薄まってきている」と発言し、麻生財務相が外債購入に否定的な発言をする中で円高が進行。さらに、BOEのMPC議事録にて、資産買入枠の250億ポンド拡大にマイルズ委員の他、キングBOE総裁、フィッシャー委員が賛成していたことが明らかになった上、利下げや他の緩和手段についても協議していたことが明らかになると、ポンドは急落した。
- ⑥ 25日、前週末のNY終盤に格付け会社ムーディーズが英国を格下げしたことを受けたポンド売りで、未明の「政府は次期日銀総裁に黒田氏、副総裁に岩田(規)氏と中曽氏を起用する方針を固めた」とのニュースを受けた円売りが交錯し、朝のポンド/円は乱高下。日本時間26日に入り、イタリアの総選挙結果から同国の財政問題の先行き懸念が強まり、NYダウ平均が大幅に下落すると、ポンド/円も137.87円まで下げた。
- ⑦ 26日、前日の急落の反動でポンド/円は反発。しかし、NY市場でバーナンキFRB議長が量的緩和継続の姿勢を改めて示したことを受けてドル/円が急落すると、137.82円まで連れ安した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP / JPY

## 今月のポイント

2月のポンド/円相場は137.82円～147.97円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.2%の下落(ポンド安・円高)となった。

2月のポンド/円は次期日銀総裁人事や日本の円高政策に対するG7やG20の財務相・中銀総裁会合に向けた各国の思惑、金融緩和策についての本邦政府要人の発言などの「円」側の要因と、英中銀(BOE)の金融政策委員会(MPC)の議事録やBOE要人の発言などの「ポンド」側の要因の2つの柱に加え、下旬にはイタリアの総選挙という外部要因が重なり、徐々に下値を切り下げる流れとなった。

日本側の材料については、日銀総裁人事が一服している上、3月の金融政策決定会合は白川日銀総裁の下での最後の会合になるため、追加的な政策が出てくる可能性は低い。ただ、黒田次期総裁や、岩田次期副総裁の発言が報じられれば、適宜材料視されることはあり得るだろう。リフレ派の2人の就任前の発言は、リップサービスの領域になり得る点を考慮すると、基本的には円安要因になりそうだ。一方、英国については、一部で資産買入枠拡大を予想する市場関係者も出てきており、MPCでの決定に注目が集まる。大方の予想は資産買入枠据え置きのため、資産買入枠拡大が決定された場合のポンド売り圧力はかなり大きなものになることも考えられる。

この他、イタリアの政局に絡んだ各種報道もポンド相場に影響すると見られる。その場合、ポンド/円はユーロ/円の動きを見るだけでなく、ユーロ/ポンドの動きにも気を配りたい。力関係によっては、ユーロ/円が下げる場面でもポンド/円は動かない、もしくはむしろ反発してしまうこともあり得る。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 137.00～144.00円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月英PMI製造業	3/12(火)	1月英鉱工業生産
	2月米ISM製造業景況指数		1月英商品貿易収支
3/4(月)	2月英PMI建設業	3/19(火)	2月英消費者物価指数
3/5(火)	2月英PMIサービス業		2月英生産者物価指数
	2月米ISM非製造業景況指数	3/20(水)	BOE議事録
3/6(水)	2月米ADP全国雇用者数		2月英雇用統計
3/7(木)	日銀金融政策決定会合(6日～発表)	3/21(木)	2月日通関ベース貿易収支
	BOE政策金利発表		2月英小売売上高指数
3/8(金)	1日日経常収支	3/27(水)	第4四半期英GDP・確報値
	2月米雇用統計	3/28(木)	3月英GFK消費者信頼感調査
3/12(火)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (2月13日・14日分)	3/29(金)	2月日全国消費者物価指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

# GBP/USD

## ポンド/ドル 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5862ドル	1.5876ドル	1.5070ドル	1.5165ドル



①	1日、米1月雇用統計にて失業率は7.9%、非農業部門雇用者数は15.7万人増と、市場予想(7.8%、16.5万人増)よりも弱い結果になったものの、その後発表された米1月シガン大消費者信頼感指数・確報値や米1月ISM製造業景況指数が市場予想を上回りドル高が進行。ポンド/ドルは値を下げた。
②	5日、一部で欧州中銀(ECB)関係者の話として「ユーロは金融政策の行動を促すほど高い水準にはない」と報じられた事を受け、ユーロ/ポンドでユーロ高・ポンド安が進行すると、ポンド/ドルは失速した。
③	7日、欧州株高やカーニ一次期英中銀(BOE)総裁の公聴会前のポジション整理のポンド買いが入った上、公聴会にてカーニ一次期総裁が「BOEは非伝統的な政策を脱しなければならない」と述べるとポンド/円は147.97円まで急騰。ただ、その後は「就任時に一段の刺激策が必要とされれば、他の金融政策委員会(MPC)メンバーを説得するため最善を尽くす」とハト派的な発言が出た他、ドラギECB総裁の「ユーロ圏の景気見通しのリスクは下向き」等の発言を受けた全般的なリスク回避ムードの中でポンド/ドルは失速した。なお、MPCは市場予想通り金融政策を据え置いたが、声明で「穏やかで持続的な回復を引き続き予想するが、リスクは下向き」等とリスクに配慮する姿勢を示したこともポンドの重石となった。
④	13日、英インフレ報告で2年後のインフレ見通しが2.3%前後と前回分を上方修正したことから初動はポンド高で反応したが、成長率見通しを1.9%前後(11月予想:2.0%)と引き下げたことや、キングBOE総裁が「必要ならば追加緩和を実施する用意がある」と発言したこと等を受けて失速した。
⑤	20日、英中銀(BOE)議事録が公表され、資産買入枠の250億ポンド拡大にマイルズ委員他、キングBOE総裁、フィッシャー委員が賛成していたことが明らかになった上、利下げや他の緩和手段についても協議していたことが明らかになると、ポンドは急落した。さらに、米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録において「数人のメンバーは雇用の顕著な改善が見られるまで資産購入の継続を主張」する一方、「幾人かのメンバーは景気予測次第で量的緩和のペースを変更すべき」など、ややタカ派的な内容となった。これを受けたドル買いによってポンド/ドルは一段安となった。
⑥	25日、前週末のNY終盤に格付け会社ムーディーズが英国債を格下げしたことを受けたポンド売りによって、早朝に1.5070ドルまで値を下げた。その後、一時1.5161ドルまで値を戻したが、日本時間26日に入り、イタリアの総選挙結果から同国の財政問題の先行き懸念が拡がりNYダウ平均が大幅に下落。ポンド/ドルは一旦1.5086ドルまで急落した。ただ、その後はユーロ/ポンドでのポンド高に連れて反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。



## GBP / USD

## 今月のポイント

2月のポンド/ドル相場は1.5070ドル～1.5876ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.3%の下落(ポンド安・ドル高)となった。

2月のポンド/ドルはユーロ/ポンドの動きに翻弄される場面も目立ったが、ポンド安が具体的に進む要因となったのは、英四半期インフレ報告後にキングBOE総裁が追加の量的緩和の可能性を示唆したことや、MPC議事録によって資産購入枠拡大を主張していたメンバーが増えていた点大きい。そこにさらに、FOMCのややタカ派色の強めの議事録や、イタリア総選挙を受けたリスク回避の動きなどが重なった格好だ。

3月は英米双方の経済指標や中銀の姿勢に注目が集まる。BOEについては、3月のMPCでは資産買入枠据え置き予想が大勢を占めているものの、2月のMPC議事録を受けて資産買入枠拡大を予想する市場関係者が出てきている。つまり、資産買入枠が据え置かれた場合はドル買いが強まると考えられるが、資産購入枠拡大となった場合はかなり強めのポンド売り圧力になると考えられる。一方、米国は金融政策変更の可能性は低いですが、米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明での景気判断は手掛かり材料視されよう。また、今回のFOMCについてはFOMCメンバーによる経済予想と、バーナンキFRB議長の記者会見も予定されている。併せて注目だ。また、米国については歳出削減に関する与野党協議の進捗についても材料になってこよう。この他、もちろんイタリアの政局についての報道も引き続き注目される。

なお、ポンド/ドルはテクニカル面でも弱い状態で、2010年5月安値1.4228ドルから2011年4月高値1.6744ドルまでの上昇に対する61.8%押し(1.5189ドル)の水準を割り込んでしまった。2月の時点では節目の1.50ドル台では底堅さを見せているが、これを割り込んでしまうと一段と下げが加速する可能性も視野に入れておきたい。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 1.4800～1.5400ドル)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(金)	2月英PMI製造業	3/15(金)	3月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	2月米ISM製造業景況指数	3/19(火)	2月米住宅着工件数
3/4(月)	2月英PMI建設業		2月英消費者物価指数
3/5(火)	2月英PMIサービス業		2月英生産者物価指数
	2月米ISM非製造業景況指数	3/20(水)	BOE議事録
3/6(水)	2月米ADP全国雇用者数		2月英雇用統計
	米地区連銀経済報告(ページブック)		FOMC政策金利発表
3/7(木)	BOE政策金利発表	3/21(木)	2月英小売売上高指数
3/8(金)	2月米雇用統計	3/26(火)	2月米耐久財受注
3/12(火)	1月英鉱工業生産		3月米消費者信頼感指数
	1月英商品貿易収支		3月米リッチモンド連銀製造業指数
3/13(水)	2月米小売売上高	3/27(水)	第4四半期英GDP・確報値
	2月米鉱工業生産	3/28(木)	3月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。